

商工会議所 LOBO (早期景気観測)

- 2009年3月調査結果 -



2009年3月31日

< 結果のポイント >

3月の全産業合計の業況DIは 72.8と、調査開始後の最悪値を記録した前月から底ばいが続いている。一方、全産業合計の売上DIは、調査開始後の最悪値を記録。需要不足による仕事の激減が浮き彫りとなっている。

業種別では、世界的な景気悪化の影響により、受注が大幅に落ち込んだ製造業や、先行き不安に伴う消費者の購買意欲の低下が大きく影響した小売業の低迷が目立つ。小売業の業況DIと売上DIは、調査開始後の最悪値を記録。

また、受注や売上の減少に伴う、採算悪化などの影響による人員削減や倒産・廃業が増加、全産業合計の従業員DIは 20.0と、調査開始後の最悪値を記録した前月と同水準。

来月以降も、受注の減少や売上の悪化など、引き続き厳しい状況を懸念する声が、全ての業種から寄せられている。

調査要領

調査期間 2009年3月17日～24日

調査対象 全国の405商工会議所が2585業種組合などにヒアリング

(内訳) 建設業: 382 製造業: 617 卸売業: 236

小売業: 736 サービス業: 614

調査項目 今月の業況・売上・採算などについての状況および業界として当面する問題など

DI値(景況判断指数)について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりの意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算: (好転) - (悪化) 売上: (増加) - (減少)

【本件照会先】産業政策部 TEL:03-3283-7836

E-Mail:sangyo@jcci.or.jp

<http://www.jcci.or.jp/lobo/lobo.html>

業況DIは、調査開始後の最悪値を記録した前月と同水準

3月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、72.8となり、調査開始後の最悪値を記録した前月（73.4）から底ばいが続いている。

産業別にみると、DI値のマイナス幅は、調査開始後の最悪値を記録した小売で拡大した一方、他の4業種も低水準で推移した。

景気に関する声、当面する問題としては、受注の大幅な減少や売上の低迷により、業種を問わず収益確保は厳しい状況。また、景気の悪化に伴う先行きへの不安を訴える声も非常に多い。このため、雇用面では過剰感が前月同様に強く、人員削減や倒産・廃業の増加に関する声が各業種から寄せられている。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】～業況DIは引き続き低水準で推移～

- ・「受注の減少に伴い、資金繰りが悪化。人員削減を実施する事業所も発生する見込み」（一般工事業）
- ・「設備投資と住宅着工戸数の減少により、売上の低迷が顕著。4～5月の受注の予定も立たない状況」（一般工事業）
- ・「少ない受注も採算の合わないものが多く、収益確保は厳しい状況」（管工事業）

【製造業】～業況DIは調査開始後の最悪値を記録した前月と同水準～

- ・「これまで以上に業況は厳しく、週休3日だった事業所が週休4日、5日と稼働日数がさらに減少」（鉄素形材製造業）
- ・「減少が続く受注を確保するための値下げ競争が厳しく、採算が悪化」（暖房装置・配管製造業）
- ・「売上が前期比50%近く減少している企業が多く、一時的な受注はあるが、収益確保には繋がらない」（金属加工機械製造業）

【卸売業】～売上、資金繰りDIは調査開始後の最悪値～

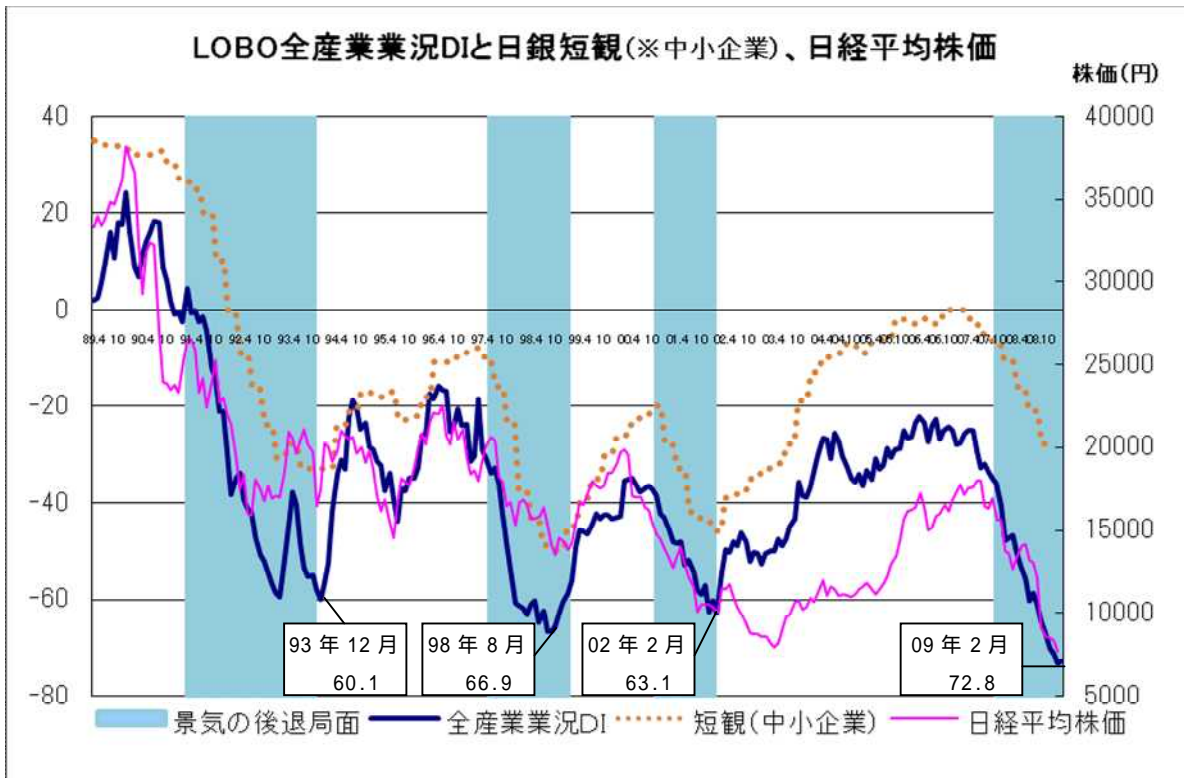
- ・「例年であれば年度末で売上の増加が見込めるところだが、今年は官公庁や企業の引き締めにより売上が減少」（各種商品卸売業）
- ・「消費の低迷が顕著で、果物など贅沢品の売上が悪化」（農畜産水産物卸売業）
- ・「2月、3月は電話も全くないほど厳しい状況」（建築材料卸売業）

【小売業】～業況、売上、採算、資金繰りDIは、調査開始後の最悪値～

- ・「消費者の低価格・節約志向により、収益が悪化」（百貨店）
- ・「特に飲食サービスの売上が不調」（商店街）
- ・「近隣の大型店の撤退により人通りが減少し、売上も悪化」（商店街）

【サービス業】～売上、従業員DIは調査開始後の最悪値～

- ・「歓送迎会の予約も非常に少なく厳しい状況」（食堂・レストラン）
- ・「景気の悪化に伴い来客数・売上が減少し、閉店する店舗も発生」（一般飲食店）
- ・「各企業とも業績悪化のため、トラック輸送が大幅に減少」（その他のサービス業）



短観(中小企業): 資本金2千万円以上の企業が調査対象



【業況についての判断】

3月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、72.8となり、調査開始後の最悪値を記録した前月（73.4）から底ばいが続いている。

産業別にみると、DI値のマイナス幅は、調査開始後の最悪値を記録した小売で拡大した一方、他の4業種は縮小した。

向こう3カ月（4月～6月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が64.0と、昨年同時期の先行き見通し（43.1）に比べて20ポイント以上悪化している。

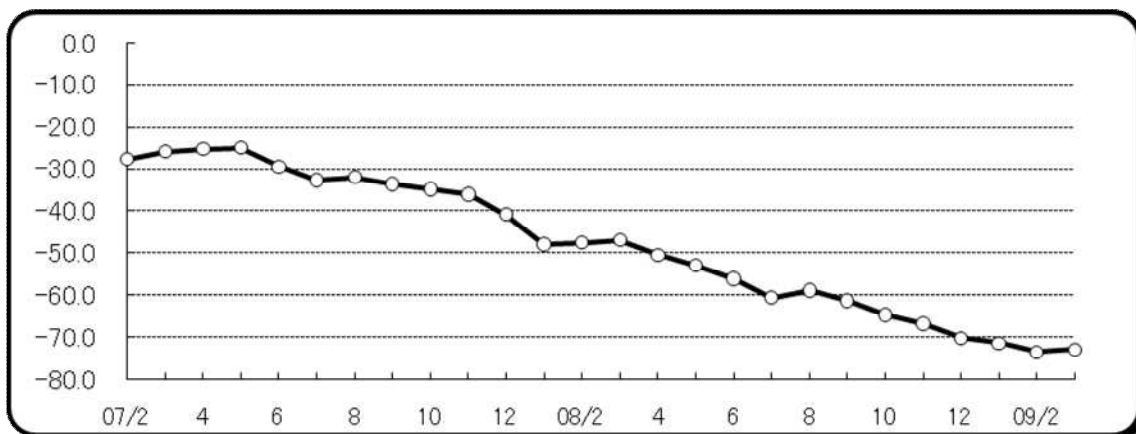
産業別にみても、すべての業種で昨年同時期の先行き見通しに対しマイナス幅が拡大している。

業況DI（前年同月比）の推移

	08年 10月	11月	12月	09年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	64.6	66.7	70.2	71.3	73.4	72.8	64.0 (43.1)
建設	71.1	70.0	74.2	73.2	75.8	72.1	68.3 (61.8)
製造	59.8	68.3	72.7	72.5	75.6	73.5	63.4 (41.1)
卸売	63.8	67.6	67.6	71.6	71.1	70.5	60.7 (36.7)
小売	64.4	64.8	69.2	70.6	71.5	75.5	65.5 (41.6)
サービス	65.9	64.6	67.3	69.6	72.6	70.2	61.4 (38.0)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI（ ）内は昨年3月の先行き見通しDI <以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が0.8ポイント拡大して68.5となり、12カ月連続で悪化、調査開始後の最悪値を記録した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設、製造で縮小したものの、他の3業種では拡大し、調査開始後の最悪値を記録。

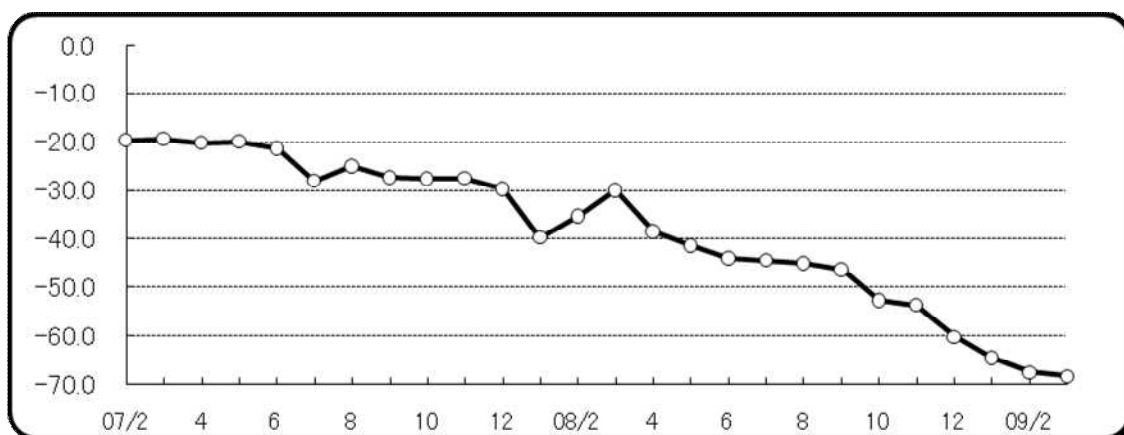
向こう3カ月(4月～6月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が58.7と、昨年同時期の先行き見通し(31.0)に比べ27ポイント悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が拡大している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	08年			09年			先行き見通し 4～6月
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
全産業	52.9	53.8	60.4	64.7	67.7	68.5	58.7 (31.0)
建設	65.3	62.8	63.1	69.4	68.2	64.8	63.7 (59.7)
製造	47.7	51.2	59.2	65.4	72.3	68.7	57.5 (22.2)
卸売	42.3	50.0	60.0	60.1	57.8	68.5	51.7 (23.5)
小売	55.0	53.9	58.7	63.8	67.7	72.1	61.6 (30.2)
サービス	52.0	52.0	61.9	64.0	66.5	66.7	56.3 (26.5)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅がほぼ横ばいの 67.2となり、調査開始後の最悪値を記録した前月から低水準で推移した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は卸売、小売で拡大したものの、他の3業種では縮小した。中でも小売は、調査開始後の最悪値を記録。

向こう3カ月(4月～6月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が 58.6と、昨年同時期の先行き見通し(37.3)に比べて21ポイント以上悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が拡大している。

採算D I (前年同月比) の推移

	08年 10月	11月	12月	09年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	59.1	59.7	64.4	65.1	67.9	67.2	58.6 (37.3)
建設	70.1	67.5	66.4	68.5	70.8	67.0	62.8 (60.1)
製造	60.3	62.4	68.3	67.8	73.6	71.6	59.7 (39.0)
卸売	50.3	57.7	57.9	59.5	55.2	60.3	49.0 (24.7)
小売	53.9	55.1	61.4	62.3	66.5	67.4	59.3 (31.9)
サービス	60.4	58.2	65.3	65.7	67.0	65.2	57.8 (33.1)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	08年 10月	11月	12月	09年 1月	2月	3月	先行き見通し 4~6月
全産業	41.3	41.5	45.9	45.8	48.5	48.1	45.7 (29.1)
建設	55.0	55.2	56.8	51.6	59.2	57.7	58.5 (45.6)
製造	43.8	44.9	50.1	52.6	54.2	53.2	48.8 (29.2)
卸売	32.1	37.0	42.3	43.0	41.1	43.8	41.9 (22.5)
小売	35.1	34.9	38.2	38.6	40.2	40.3	38.8 (24.1)
サービス	40.2	38.1	44.3	44.3	47.8	46.8	42.9 (27.1)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは、調査開始後の最悪値を記録した前月からほぼ横ばい。産業別にみると、D I値のマイナス幅は、調査開始後の最悪値を記録した卸売、小売で拡大した一方、他の3業種はほぼ横ばい。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で悪化が強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	08年 10月	11月	12月	09年 1月	2月	3月	先行き見通し 4~6月
全産業	55.1	49.6	40.4	31.1	28.0	25.7	16.8 (48.6)
建設	61.4	55.7	46.6	35.0	34.1	29.6	23.8 (53.4)
製造	62.5	54.7	42.4	29.3	28.4	26.8	13.6 (54.6)
卸売	45.0	36.6	29.2	19.6	18.0	17.2	15.2 (47.3)
小売	50.0	44.9	35.5	30.4	27.2	23.9	14.0 (42.5)
サービス	53.4	51.2	44.5	35.8	28.4	27.9	19.9 (47.2)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは 25.7となり、上昇感が7カ月連続で弱まった。産業別にみても、すべての業種で上昇感が弱まっている。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇感が弱まる見通し。産業別にみても、すべての業種で上昇感が弱まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	08年 10月	11月	12月	09年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	11.1	10.8	16.3	18.1	20.2	20.0	20.3 (4.1)
建設	28.6	28.7	30.3	39.6	37.4	34.5	36.0 (22.7)
製造	13.4	13.8	22.9	27.5	28.7	28.6	27.5 (4.5)
卸売	13.4	11.3	15.3	17.0	18.8	20.7	18.8 (4.7)
小売	3.3	3.5	8.5	5.4	8.2	8.4	11.8 (2.0)
サービス	5.2	4.1	10.1	9.7	14.5	14.7	12.8 (1.1)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の従業員D Iは、調査開始後の最悪値を記録した前月からほぼ横ばい。産業別にみると、D I値は卸売、小売、サービスで過剰感が強まった一方、他の2業種はほぼ横ばい。中でもサービスは、調査開始後の最悪値を記録。

【先行き見通しD I】全産業合計は過剰感が強まる見通し。産業別にみると、小売、サービスで過剰に転じ、他の3業種で過剰感が強まる見通し。

【2009年3月の景気キーワード】

受注の大幅な減少

世界的な不況の影響に伴う受注の大幅な減少や売上の悪化など、厳しい業況を訴える声が寄せられている。建設業からは、「住宅産業は通常3月に入れば受注増加となるが、今年は前年より動きが鈍く厳しい」（帯広・建築工事業）、「公共工事と景気悪化による民間工事の減少で、売上が大幅に悪化」（境港・建築工事業）、製造業からは、「消費が一段と冷え込む中、外食産業の不振に伴い売上が減少」（横浜・他の食料品製造業）、「住宅着工の減少で厳しい状況が続き、収益が大幅に悪化」（境港・製材木製品製造業）、「公共工事の削減とマンション不況の影響により、受注が大幅に減少」（横須賀・セメント製品製造業）などの声が寄せられている。

消費マインドの冷え込み

景気の悪化や先行きへの不安感から、消費者の購買意欲の低下による売上の悪化などの悪影響を挙げる声も寄せられている。小売業からは、「買い控えムードが高まっており、商品価格の値下げが止まらず採算が悪化」（札幌・百貨店）、「企業の倒産や従業員削減等の影響で、特に飲食店の売上が減少」（東大阪・その他の小売業）、「前月に比べ来客数は増加したものの、購入単価は低く、売上の増加には繋がらない」（金沢・商店街）サービス業からは、「景気の悪化により送別会の2次会、3次会が減少し、売上が悪化」（倉敷・食堂・レストラン）、「例年は予約が増加する時期だが、前年同月と比べられないほど厳しい状況」（銚子・旅館）といった声がある。

雇用情勢の悪化

売上の低迷を始めとする業況悪化の影響などから、今月も倒産・廃業に加え、雇用調整や賃金削減の実施に関する声が多い。建設業からは、「現在の厳しい状況が続けば、賃金の削減等を行わざるをえない」（東広島・一般工事業）製造業からは、「3月に入り一段と受注が減少し、倒産する事業所も発生」（半田・織物製造業）、「受注が大幅に減少し、従業員を削減」（帯広・家具製造業）サービス業からは、「業種を問わず受注が減少し、春の定期昇給など考えられない状況」（上田・ソフトウェア業）などの声が寄せられている。一方、小売業からは、「パート・アルバイトの応募が増加し、質が向上した」（焼津・百貨店）との声も寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
09年 1月	受注の大幅な減少	消費マインドの冷え込み	先行き不安感の拡大
2月	受注の大幅な減少	消費マインドの冷え込み	雇用情勢の悪化
3月	受注の大幅な減少	消費マインドの冷え込み	雇用情勢の悪化

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

本文中の（ ）内は、（地名・業種）を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは2カ月ぶり、採算D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小、売上D Iは2カ月連続で縮小した。「民間住宅の需要が低迷し、先行きが不安」、「受注の減少や資材価格の高値での推移など、業界にとって厳しい状況は今後も続く見込み」(ともに一般工事業)、「景気の悪化に伴い、民間・官公庁ともに受注が大幅に減少」(建築工事業)、「競争の激化により、販売価格が大きく低下しており、収益が減少」(建築工事業)といった声が寄せられている。
製 造	業況D I、採算D Iは2カ月ぶり、売上D Iは12カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「例年、売上が増加する時期だが、依然として消費者の購買意欲が低いため、期待は薄い」(パン・菓子製造業)、「従業員は慢性的に過剰状態で、一部雇用調整を行った」(工業用プラスチック製造業)、「生産量は前年同月比約4割の減少。雇用調整助成金を受けながら、一時休業は当分継続する見込み」(耐火物製造業)、「昨年の春から夏に鋼材価格が大幅に上昇、現在は少しずつ下落しているものの、在庫商品の価格が高値で需要も低迷しているため、収益は減少」(金属製品製造業)といった声が寄せられている。
卸 売	業況D Iはほぼ横ばい、売上D I、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「従業員の削減を実施したものの、現在の厳しい状況乗り越えるだけの体力を維持できるかが、当面の課題」(衣服・日用品卸売業)、「輸出量・輸出額ともに月を追うごとに悪化、国内需要も昨年度並みを確保できるか不安」、「前月同様の厳しい状況に変わりなく、消費は冷えたままで出口が見えない状況」(ともに農畜産水産物卸売業)、「今月になって仕入れ価格が上昇しているが、販売価格に転嫁できず、収益は悪化」(化学製品卸売業)といった声が寄せられている一方、「今後、気温が上昇すれば売上は増加する見通し」(食料・飲料卸売業)といった声も寄せられている。
小 売	業況D I、採算D Iは8カ月連続、売上D Iは4カ月連続でマイナス幅が拡大した。「特に衣料品の不振が顕著で、売上は前年比50%以上の減少」、「売上の低迷に伴うテナントの退店が増加」(ともに百貨店)、「売上の悪化が続く中、定額給付金だけでは消費の回復は期待できず、当面は厳しい状況が続く見込み」(その他の小売業)、「消費者の購買意欲が低下し、値下げしても売上の増加は困難な状況」、「地域の大手メーカーの業績悪化による人員削減のため、飲食店などの売上への悪影響を懸念」(ともに商店街)といった声が寄せられている。
サービ ス	業況D I、採算D Iは4カ月ぶりにマイナス幅が縮小、売上D Iは4カ月連続で拡大した。「今月は期末の駆け込みにより売上が増加したものの、来期の業況は不透明」(ソフトウェア業)、「売上が減少し、開店休業の店も見られ、従業員の削減や廃業を行わなければならない店も少なくない」(一般飲食店)、「従業員の賃金削減を行っても、厳しい経営状況が続いている」、「日帰り出張が増えたのか、出張のビジネス客が急激に減少」(ともに旅館)、「景気の悪化に伴い、来客数が前年比で2~3割減少」(理容業)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、概ね横ばい。北海道は、年度末の建設需要の若干の増加や、燃料価格の下落による好影響によりマイナス幅が縮小したが、厳しい状況が不変との声も多い。

ブロック別の向こう3カ月(4月～6月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、すべてのブロックで悪化している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

	08年 10月	11月	12月	09年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全 国	64.6	66.7	70.2	71.3	73.4	72.8	64.0 (43.1)
北 海 道	57.6	58.8	70.5	63.5	70.8	60.7	52.4 (48.3)
東 北	63.0	61.0	78.2	72.9	70.9	71.9	63.9 (42.4)
北陸信越	64.9	69.7	67.6	75.7	72.9	73.3	60.0 (34.6)
関 東	66.4	66.2	71.1	71.6	77.0	73.8	65.7 (39.6)
東 海	63.6	63.4	67.6	70.3	71.9	70.3	60.4 (45.1)
近 畿	67.5	74.4	76.1	75.3	79.8	77.5	65.4 (48.1)
中 国	64.9	74.8	73.3	74.4	77.7	81.2	69.8 (46.3)
四 国	64.3	60.5	55.3	63.6	59.8	66.4	63.2 (42.9)
九 州	63.4	66.2	65.8	69.8	69.5	71.8	67.3 (45.7)